

第 III 部

宇宙人テクノロジーの探求
者たちへ

第 8 章

宇宙人の唯心論量子科学

さて、これから我が地球を訪れる宇宙人、つまり、来訪者、宇宙人たちの科学技術について考えていこう。

この問題は、実際にあった人、あるいは、拉致された人でなければ、本当のところはわからないだろう。しかしながら、単に宇宙人や円盤に会っただけ、実際に見ただけという人では、ほとんど意味がない。

なぜなら、特にその中でも科学者の教育を受けたものでないと、本当の科学についてはわからないからだ。科学者でも従来の“標準理論”の洗脳教育を受けたものでは、拒絶するか、気が狂うだけで、これもだめだ。非常に知能が高く、柔軟で、臨機応変な思考の持ち主でないと不可能だ。

だから、ここからは、さらに多くの推論、類推、憶測が入る。さらに多くの人聞き、又聞きの内容も混在してくることだろう。そういう、玉石混交の情報の渦の中から、一筋の真実を描く。これが、本章の目標だ。

はたして、そんな事ができるかどうかは全くわからない。とにかくやってみるだけだ。

井口博士のお手並み拝見といこうではないか？

8.1 世界の主要国の宇宙人協力者たち

さて、いきなりで恐縮だが、こんな問いから始めたい。

「世界の主要国の政府・軍隊のリーダーの多くが、宇宙人の協力を受けている」

こういうことを聞いたことがあるだろうか？

実は、これは事実なのだ。すでに大半のエリート国の上層部には宇宙人の介入があったのだ。これは、古くからあった。

8.1.1 古代マヤの空飛ぶ円盤遺跡

例えば、古代マヤの遺跡からこんなレリーフの石版が見つまっている^{*1*2}。これは、古代遺跡研究家のナッシム・ハラメイン博士^{*3}による研究だ。古代史研究家のエーリッヒ・フォン・デニケン^{*4}に始まる「古代宇宙飛行士説」に端を発するものだ。

こういった遺跡は無数に発見されてきたが、すべて「オーパー

^{*1} MUST SEE!!! DISCLOSURE!!! NEW Ancient Mayan artifacts found!.; <https://www.youtube.com/watch?v=izOSos-eApY>.

^{*2} 「マヤの UFO 遺跡見つかる！？：空飛ぶ円盤に乗るマヤ人たち！？」
<https://quasimoto.exblog.jp/17108578/>.

^{*3} Nassim Hamein, <https://ja-jp.facebook.com/Nassim.Hamein.official>

^{*4} Erich von Däniken, 1935 年 4 月 14 日 - .;
<https://ja.wikipedia.org/wiki/エーリッヒ・フォン・デニケン>.

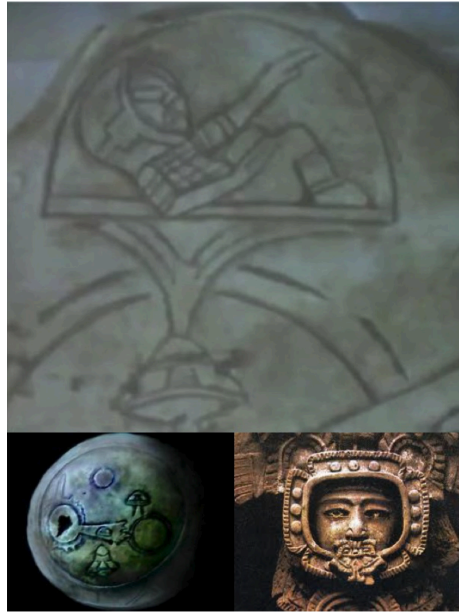


図 8.1 マヤの UFO 遺跡見つかる！？：
 空飛ぶ円盤に乗るマヤ人たち！？
<https://quasimoto.exblog.jp/17108578/>
 MUST SEE!!! DISCLOSURE!!!
 NEW Ancient Mayan artifacts found!.
<https://www.youtube.com/watch?v=izOSos-eApY>

ツ」に分類された。大半はお蔵入り、あるいは、破壊された。あるいは、アメリカの CIA の宇宙部門 ACIO により確保されて行方不明になった。

ところで、この ACIO という組織は、エリア 5 1 (ネバダ州レイチェル) やエリア 5 2 (豪州中央砂漠) やエリア 5 3 (ユタ州東部山岳地帯) ほど有名ではない。だから、我が国ではまだ全く知られていない。せいぜい、ウィングメーカー^{*5}に出てくる架空の組織名だ

^{*5} WingMakers LLC/大野 百合子著/shima 訳「ウィングメーカー」(ヴォイス, 2005年).

と思われているようだ。しかしながら、これはスティーブン・グリア博士の「デイスクロージャー」の中の証言に出てくる実在の組織である。これを証言したのは、米空軍曹長、国家偵察局 (NRO) 諜報員のダン・モリスだった*⁶。ここで、宇宙人と米国人との間の共同研究が行われているのだ。特に、コルテウムという名の長身の色の白いホワイト・トール・グレイと呼ばれる宇宙人と研究協力している組織である。

8.1.2 アドルフ・ヒトラーと協力した宇宙人

ドイツの場合は、戦前のナチスドイツのヴリル協会*⁷とトゥーレ協会*⁸に空飛ぶ円盤技術への端を発する (第7章でみた)*⁹。ナチス・ドイツのアドルフ・ヒトラー総統自体が、グレイ型の宇宙人との交流があったという伝説がある*¹⁰*¹¹。

この時の宇宙人との交流により、ヒトラーに何がもたらされたか？

それが、空飛ぶ円盤開発だ。

当時は、まだプロペラ機の時代だった。ドイツの最先端機はメッ

*⁶ スティーブン・M・グリア編著/廣瀬保雄訳「デイスクロージャー 軍と政府の証人たちにより暴露された現代史における最大の秘密」(ナチュラルスピリット, 2017) 441ページ。

*⁷ Vril society; <https://ja.wikipedia.org/wiki/ヴリル協会>.

*⁸ Thule society; <https://ja.wikipedia.org/wiki/トゥーレ協会>.

*⁹ 落合信彦著「20世紀最後の真実」(集英社, 1980年)。

*¹⁰ 「マイケル・プリンス「WWIII、敵対的な ET たちと人類との間の戦争が開始された！」1」<https://quasimoto.exblog.jp/15006532/>.

*¹¹ 「マイケル・プリンス「WWIII、敵対的な ET たちと人類との間の戦争が開始された！」2」<https://quasimoto.exblog.jp/15006577/>.



図 8.2 アドルフ・ヒトラーと宇宙人の会見
マイケル・プリンス「WWIII、敵対的な ET たちと人類との間の戦争が開始された！」¹
<https://quasimoto.exblog.jp/15006532/>

サーシュミットである。イギリスの最先端機は、ドイツのメッサーシュミットのコピー、スピットファイヤーだ。当時の世界最高性能であった日本の最新鋭機がゼロ戦だ。

そんな時代に、ナチスドイツは、いまの航空機の主流となっているジェット機のジェットエンジンを作り出した。その次に、後に NASA の宇宙開発の基盤になるロケット技術の V 1 号や V 2 号を生み出し、イギリスを恐怖のどん底へ突き落とした。さらにその上に、空飛ぶ円盤機を開発していたわけだ。もともと画家出身で文系のアドルフ・ヒトラーにそんな工学的アイデアなど単独で生まれるはずがない。

そこで、アドルフ・ヒトラーにアイデアのヒントや方向性をもたらす人物がいたのではないかな？

とかなり昔から言われてきたのだ。霊媒師の女性のインスピレーションだったとか、あるいは、悪魔主義のメフィスト降ろしのせいだったとか、宇宙人の支援を受けたなどだ。

いまとなっては真相はわからない。しかしながら、得られた円盤技術があまりに完璧なために、だれかの明確な技術支援があったはずだったというわけだ。

それが、ウィリアム・ラインの研究によれば、ヴェルナー・フォン・ブラウン博士のせいだったということになる^{*12}。フォン・ブラウンが、米国でスパイ行為を行ったのだ。彼は、戦前1930年代にアメリカに渡ってニコラ・テスラの電磁推進力による反重力エンジンの技術を盗み出した。これをニューメキシコの砂漠で実験し、そのデータを持って本国へ戻った。この可能性はかなり高い。

しかしそれだけでは、あれほど急ピッチに広範囲で同時並行的に大規模な研究が進むとは思えないのだ。いくらドイツ人が優秀だったとしても、ドイツ人だけでは不可能だ。だから、やはり宇宙人、特に、グレイタイプの宇宙人の支援を受けた可能性が高いのだ。

8.1.3 ロシア政府と協力した宇宙人

一方、ロシアの場合は、我々西側世界の住人には鉄のカーテンの時代のことはほとんどわからなかった。しかしながら、比較的最近

^{*12} William Lyne, *Occult Ether Physics: Tesla's hidden space propulsion and the conspiracy to conceal it*, 4th ed., (Creation Productions, NM, 2012 年 2 月 14 日.) この拙訳は私の HP に掲載中。ウィリアム・ライン著/井口和基訳「オカルト・エーテル物理学/テスラの隠された空間推進システムとそれを葬った陰謀」, 2020 年. <http://www.stannet.ne.jp/kazumoto/LyneOEP4.pdf>.

は、ロシア軍が宇宙人と協力体制の下で円盤制作を行っているという話がある*13。

その場合のロシア政府に協力する宇宙人は、かなり背の高い西洋人型の宇宙人の支援を受けているという情報がある*14 *15。彼らの見かけはほとんど通常のロシア人と大差ない。だから、彼らが言葉を話さなければ、まったくわからないのだ。



図 8.3 ロ シ ア の 円 盤

ロシア軍が多数の円盤を深夜に運搬！？：リーク情報？？

<https://quasimoto.exblog.jp/14253845/>

ロシア人に協力している宇宙人グループは、1種類の背の高い白人タイプで、非常にスピリチュアルの宇宙人のようだ。だから、そういう面をロシア人科学者が研究しているのだ。

*13 「ロシア軍が多数の円盤を深夜に運搬！？：リーク情報？？」
<https://quasimoto.exblog.jp/14253845/>.

*14 保江邦夫著「伯家新党の祝之神事を授かった僕がなぜ」(ヒカルランド, 2013年).

*15 保江邦夫著「神代到来」(海鳴社, 2018年).

ロシアには、シベリアの森林地帯に住むという、スピリチュアルな「森の人々」がいる。この人達とこのタイプの宇宙人の相性がいいということかもしれない。実際、ロシア製の UFO は、この宇宙人の指導の下、この森の人々が制作協力を行ったのだ*¹⁶ *¹⁷。

いまのロシアの最新の円盤は、それ自体が生きているタイプ。つまり、シンビオティックエンジン搭載のものだ。だから、円盤は心で操縦しなければならない。

こういうタイプの装置は、単に機械的にアセンブリして、見かけがうまく完成できればそれで良いというものではない。それが人工的に作るものだったとしても、製作者の魂を込めて作らないと機能しないのだ。だから、我が国の刀職人のように、入魂の精神を持って円盤を作り上げないと、まったく機能しないのだ。

8.1.4 アメリカ政府と協力した宇宙人

一方、宇宙人との交流の老舗は、アメリカ合衆国だ。このアメリカでは、戦後ほぼずっと宇宙人との協力体制にある。いまでもそうだ。それが、前述の ACIO という組織がその 1 つである。

いま現在、アメリカには何種類の宇宙人が協力しているのか？

それは、以下のようなものらしい。

- ・ 3 種類のグレイタイプ (ショートノーズ、ロングノーズ、ホワイト・トール)
- ・ 3 種類のレプティリアンタイプ (友好的、非友好的、非常に邪悪)

*¹⁶ 保江邦夫著「伯家新党の祝之神事を授かった僕がなぜ」(ヒカルランド, 2013年).

*¹⁷ 保江邦夫著「神代到来」(海鳴社, 2018年).

・ 1 種類の金髪碧眼型のタイプの地球人そっくりの宇宙人

こういった宇宙人が共同研究しているというのだ。グレイタイプやレプティリアンには、一般的に友好的と非友好的の2タイプある。一方、どういうわけか、欧米人型、金髪碧眼型のタイプの地球人そっくりの宇宙人は、スピリチュアルで友好的なのだ。

なぜ、わざわざ非友好的なタイプとも付き合う必要があるのか？

その理由は、彼らの科学技術にそれなりに見るべきものがあるからだという。あるいは、美しい女性がなぜヤクザと付き合う必要があるのか、なぜ離れられないのか、というのと似た状況があるようだ。

要するに、ある種のマインドコントロールをされて抜け出せないのだ。洗脳されて、利用されているというわけだ。相手の方が力の上なら、逃げられないというわけだ。

他の国々にもこういった交流があるのだ。米国以外では、イスラエルがその代表国だ。さらには、最近では、共産中国ですらグレイ宇宙人からのサポートがあるという情報もある。

残念ながら、我が国では、宇宙人とのこうした交流は記録されていない。しかし、最近では、自衛隊生粋のインサイダーが、宇宙人や UFO 情報を公然と公共の前で話すようになった^{*18} ^{*19}。我が国では、むしろ、個人レベルの方が多いのかもしれない。たとえば、

^{*18} 佐藤守著「実録・自衛隊パイロットたちが目撃した UFO 地球外生命は原発を見張っている」(講談社, 2014年). 他多数.

^{*19} 天宮清著「日本 UFO 研究史 — UFO 問題の検証と究明、情報公開」(ナチュラルスピリット, 2019年). 他多数.

リンゴの木村秋則さんのような人たちだ*20。

いずれにせよ、この段階でまず理解して欲しいことは、宇宙へ出るには、知能や精神の能力がきわめて高くないといけないということだ。霊的・スピリチュアルならなおよろしい。なぜなら多くの円盤は、精神感应型操縦装置を搭載しているからなのだ。この理由は、これからの話で徐々にわかってくると思う。

8.1.5 宇宙交換留学とリバーズ・エンジニアリング

アメリカにおける何よりもの情報は、ジェーソンスカラーからの内部情報のリークであろう*21*22。

比較的最近の極めつけは、我が国では、さまざまな人達がYouTube で取り上げた「コズミック・ディスクロージャー」だろう*23 *24。このデービッド・ウィルコック氏*25は、エドガー・ケーシーの生まれ変わりと言われる*26。彼のこの番組には、たくさん

*20 木村秋則著「すべては宇宙の采配」(東邦出版, 2009年)。

*21 ステューブ・M・グリア&セオドア・C・ローダー三世著「DISCLOSURE PROJECT BRIEFING DOCUMENT(公開プロジェクトの概要書)」(2001, 4)

*22 ステューブ・M・グリア編著/廣瀬保雄訳「ディスクロージャー 軍と政府の証人たちにより暴露された現代史における最大の秘密」(ナチュラルスピリット, 2017)

*23 「ET と人間の関係【コズミック・ディスクロージャー Season15, Episode4】」; https://www.youtube.com/watch?v=pXPY_cfi5hU; <https://quasimoto3.exblog.jp/240197620/>。

*24 「【銀河の秘密】デービッド・ウィルコック&コーリー・グッドの「Cosmic Secret」ついに公開! グリア博士の「宇宙人・UFO 暴露」以来の快挙! ?」; <https://quasimoto3.exblog.jp/240843258/>

*25 David Wilcock

*26 「血は水よりも濃い」3:他人のそら似???;

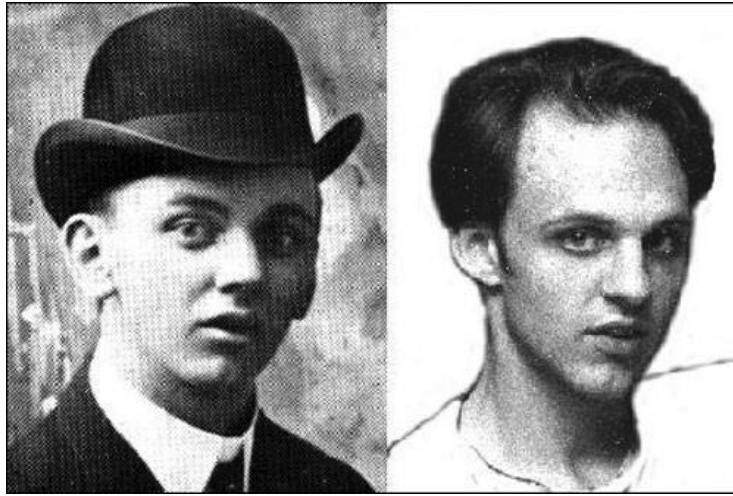


図 8.4 デービッド・ウィルコックとエドガー・ケーシー
「血は水よりも濃い」3:他人のそら似???

<https://quasimoto.exblog.jp/17550976/>

の現役、あるいは、元現役のインサイダーが登場する。

- ・エメリー・スミス
- ・コーリー・グッド
- ・キャプテン K こと、ランディー・クレイマー
- ・ピート・ピーターソン博士 (図 7.13)
- ・ウィリアム・トンプキンス博士

などだ。

この中で、米軍の円盤開発者のピート・ピーターソン博士 (図 7.13) は、特別にユニークな存在だった^{*27}。彼は、あのアイゼンハワー大統領の宇宙人との会見事件の時、宇宙人の円盤に乗って文化交流の交換留学生第一号になった米軍科学者の 1 人だったのだ。そ

<https://quasimoto.exblog.jp/17550976/>

^{*27} 「【コズミック・ディスクロージャー】ピート・ピーターソン博士は昨年暗殺されていた！ ご冥福をお祈りいたします！」

して、いつしか帰国し、米軍内のリバース・エンジニアリングの指揮をとった。一方、米軍内の円盤製作の物理学研究の指揮者、それがエドワード・テラー博士だった (図 7.6)。

こうして、宇宙留学からの帰国者と米国内の科学者たちが、一堂に介して円盤の反重力の原理や作成技術を日夜研究したのだ。しかし、あくまで米ソ冷戦、いまや米中冷戦の最中にある現代では、極秘研究しかありえない状況だったというわけだ。

ところで、リバース・エンジニアリングは、バック・エンジニアリングとか、バックワード・エンジニアリングとも言う。これは、結果から原因を探る方法の一つである。

一般に、問題を解く場合、原因を理解してその結果を予測するというのが普通のやり方である。なにかの条件を与えて、その条件下でシステムがどう振る舞うかを探るといような方法である。こういうやり方を順問題という。

これに対して、問題を解く場合に、結果を理解してその原因を予測するというのが、バックワード解析のやり方である。いま未知のシステムがどう振る舞うかの結果を見て、システムの構造がどういうものかを探るといような方法である。こういうやり方を逆問題という。これを工学に応用したものが、リバース・エンジニアリングである。

一番有名なのは、X 線レントゲン CT スキャンや MRI だろう。内部の構造のわかっている検査体を置いて、それに X 線撮影を行う。すると、検査体内部構造に応じた何らかの映像が撮影できる。これが順問題である。レントゲンはその撮影映像に異常を見つける。

一方、検査体の周囲 360 度から無数にそうした映像を撮影す

る。そのたくさんの映像のデータセットから、内部の位置情報を構築する。さらにそれから 3 D 映像を構築する。これが逆問題である。このやり方が、CT スキャンや MRI の方法である。

8.1.6 何種類の宇宙人が地球に来ているのか？

このような状況から、スティーブン・グリア博士 (図 7.2) の「ディスクロージャー・プロジェクト」が実施された 2000 年 (記者クラブ公聴会は 2001 年) までまったくインサイダーからの外部へのリークや暴露はありえなかったのだ^{*28*29*30 *31}。

では、これまで何種類の宇宙人が地球を訪問したか、知っているだろうか？

その答えは、約 57 種類ほどだ。

特にクリフォード・ストーンの宇宙人の種類の情報は実に示唆的だ。^{*32} 彼によれば、少なくとも 57 種類の宇宙人が地球を訪問している。そして、米軍は宇宙人を特徴に分けて分類しているのだ。

^{*28} UFO ディスクロージャー・プロジェクト;
https://ja.wikipedia.org/wiki/UFO_ディスクロージャー・プロジェクト.

^{*29} スティーブン・M・グリア&セオドア・C・ローダー三世著「DISCLOSURE PROJECT BRIEFING DOCUMENT(公開プロジェクトの概要書)」(2001, 4)

^{*30} スティーブン・M・グリア編著/廣瀬保雄訳「ディスクロージャー 軍と政府の証人たちにより暴露された現代史における最大の秘密」(ナチュラルスピリット, 2017)

^{*31} 「「UFO 暴露プロジェクト 2010」いま開催中：世界中のインサイダーが UFO を暴露！！」; <https://quasimoto.exblog.jp/13305673/>.

^{*32} <https://www.dailymotion.com/video/x4e4u4x>.



図 8.5 クリフォード・ストーン
「少なくとも57種類の宇宙人が地球上を訪れている」
ディスクロージャー・プロジェクト 2000年
http://www10.plala.or.jp/elf_/et/2-2.html

8.2 宇宙人と地球人のテクノロジーの違い

宇宙人と地球人のテクノロジーの違いはなんだろうか？

これまで見てきたように、基本的に地球人の我々の科学技術では、電磁気ベースの反重力である。基本的には、電気の力が中心だ。だから、リチウムイオン電池とか、原子力電池とか、とにかく何でも良いから、電気の源を探す。電圧源、電流源。バッテリーが欲しい。

一方、宇宙人の科学技術は、そうではない。地球人のさらに上をいく。彼らの技術は、電磁気だけではない。

なぜだろうか？

それは、もし電磁気の装置だけで円盤を作ったとしたら、反重力

は強力な高周波高電圧を生成する。この高周波高電圧のために、通常の装置は機能停止するだろう。そうなれば、飛ぶことは不可能だ。したがって、もっと別のタイプのテクノロジーが必要だ。

また、円盤が光速度を超える場合を考えてみよう。

質量のある物体は、どうなるのか？

アインシュタイン理論どおりなら、質量は光速度に近づくに従い、無限大になってしまう。我々のエレクトロニクスの装置内の電子は質量を持っている。つまり、電子の質量が無限大になるということだ。これでは、装置が機能しなくなる可能性が高い。だとしたら、質量はゼロのものほど良い。

ということは、質量ゼロのものが動く装置になる。これは、光ファイバーなどの光学的装置ということになるだろう。

同じような意味で、円盤操縦においても、電子機器を物理的な操作で操縦するタイプでは、宇宙を自由に飛ぶには不便なのだ。危険すぎるのだ。なぜなら、その場合は、もっと精神的な装置、テレパシーを使うような装置、超能力で操作するようなタイプの円盤ではないとまずい。猛スピードの世界では、身体が自由に動くとは限らないからだ。身体が何もできなくても、宇宙船を操作するためには、頭脳だけ、あるいは、精神だけで動かせるものが有効だろう。

事実、ロシア人の UFO の操縦は、パイロットは精神で円盤を操縦しなければならない。ところが、宇宙人パイロットはずっと操縦可能だが、ロシア軍のパイロットは、ほんの数分しかもたないそう。だから、人間の操縦の場合には、いつも横に宇宙人の指南役がつかないといけならしい。まるで、我が国の自動車教習所の仮免

許の段階に近い。そういう状況なのだ*³³。

一方、アメリカの場合は、ロズウェルに墜落した宇宙人からリバース・エンジニアリングで学んで作成した精神増強装置がある。それを利用することで、精神感应型の操縦装置に精神を使って、自在に運転できるというのだ*³⁴。

さらに、ワープ走行である場所へ瞬時に瞬間移動するとしよう。そういう場合には、移動する先の情報がなければ、安全に着陸できない。下手をすれば、行き先が隕石の直前とか、向こうの太陽の中とか、そういう場所になってしまう。

我々が新幹線で東京から大阪へ移動する場合を考えよう。あるいは、我々が東京羽田からハワイ・ホノルルまで飛行機で行く場合を考えよう。行く先の空港が安全だから、こちらから出発できるわけだ。常に到着前に到着地の情報を知らねばならない。

宇宙もこれと同じことが必要だ。早く行けるようになればなるほど、これが重要度を増す。

したがって、宇宙人の乗り物には、必ずこうした科学技術がクリアされてなければならない。

- ・ 光学的装置 (オプティカルワーク)
- ・ 精神感应型の操縦装置 (テレパシー、サイコキネシス)
- ・ 未来を見通す装置 (ルッキング・グラス)
- ・ 空間移動装置 (トランスポートーション)

*³³ 保江邦夫著「はつけ伯家神道の祝之神事を授かった僕がなぜ」(ヒカルランド、2013年)。

*³⁴ スティーブン・M・グリア編著/廣瀬保雄訳「ディスクロージャー 軍と政府の証人たちにより暴露された現代史における最大の秘密」(ナチュラルスピリット、2017年)

- ・瞬間移動装置 (タイムマシン)

さもなくば、宇宙を自由に行き来できるはずはない。

だから、ロズウェルに墜落した円盤には、

- ・ガラスのようなものでできた未知の光学的装置、
- ・形状記憶合金のような未知の金属、
- ・微小な電気回路のようなもの、
- ・頭に装着する機械のようなもの、
- ・未知のエンジン装置

などが見つかったというわけだ。戦後は、これを解明するために、フィリップ・コウソ大佐 (図 7.3) が、それが何かやその目的を知らせず、ベル研や IBM 研に研究を行わせたわけだ。

その結果、表の産業界に、

- ・形状記憶合金、
- ・半導体素子、
- ・超電導、
- ・集積回路、
- ・レーザー、
- ・光ファイバー、
- ・脳波コントローラー

などが現れたのだ。

8.3 カルダシェフ・スケール

ところで、カルダシェフ・スケールというのを聞いたことがあるだろうか？

これは、宇宙文明、つまり、惑星の科学文明を分類する尺度のことである。旧ソ連の天文学者ニコライ・セミョーノヴィチ・カルダシェフ博士^{*35}が提案した概念だ^{*36}。基本的には、その惑星文明が利用できるエネルギーのスケールで分類している。

最近では、アメリカの日系、天才理論物理学者ミチオ・カク博士が

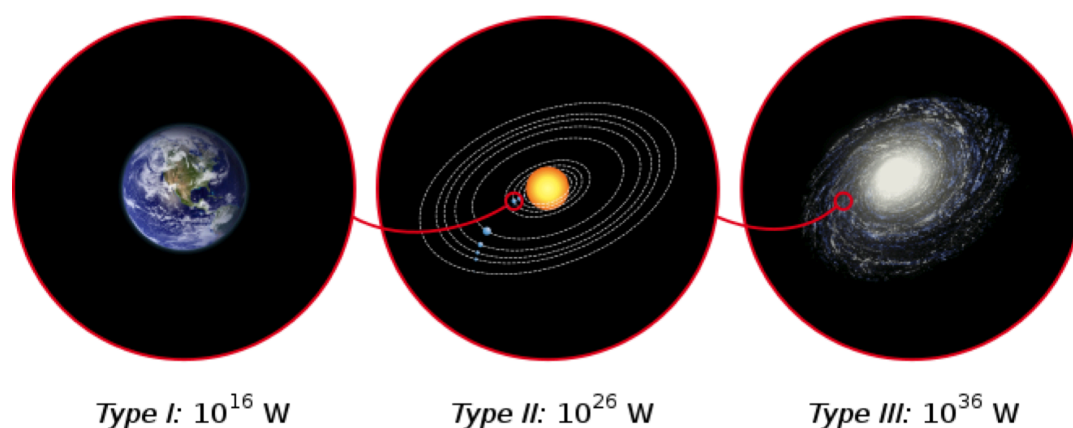


図 8.6 カ ル ダ シ ェ フ・ス ケ ー ル
旧ソ連の天文学者ニコライ・セミョーノヴィチ・カルダシェフ博士が提案した概念。
惑星文明が利用できるエネルギーのスケールで分類している。
<https://ja.wikipedia.org/wiki/カルダシェフ・スケール>

さかんに紹介している。ミチオ・カク博士は、もっと単純にイメージしやすく、Type 0 (地球レベル)、Type 1 (NWO レベル)、Type

^{*35} Николай Семёнович Кардашёв、1932年4月25日 - 2019年8月3日; <https://ja.wikipedia.org/wiki/ニコライ・カルダシェフ>。

^{*36} <https://ja.wikipedia.org/wiki/カルダシェフ・スケール>

2 (スタートレックレベル)、Type 3 (スターウォーズレベル) と言っている。

カルダシェフ博士はタイプ3までだったが、最近ではタイプ5まで拡張されている。エネルギー消費レベルはだいたい各レベル間で、 10^{12}W 程度の違いがあると見て良さそうだ。

カルダシェフ・スケール

・タイプ0文明：原始惑星文明 (国家レベル)。

惑星系の自然エネルギーのごく一部だけ利用できる。

エネルギー消費 $\leq$ 約 10^{12}W 。

・タイプ1文明：惑星文明 (地球政府レベル)。

惑星系で利用可能な全エネルギーを使用および制御できる。

エネルギー消費 $\approx 10^{12}\text{W}$ 。

・タイプ2文明：恒星文明 (スタートレックレベル)。

恒星系で利用可能な全エネルギーを使用および制御できる。

エネルギー消費 $\approx 10^{24}\text{W}$ 。

・タイプ3文明：銀河文明 (スターウォーズレベル)。

銀河系で利用可能な全エネルギーを使用および制御できる。

エネルギー消費 $\approx 10^{36}\text{W}$

・タイプ4文明：宇宙文明 (ユニヴァースレベル)。

宇宙全体で利用可能な全エネルギーを使用および制御できる。

エネルギー消費 $\approx 10^{48}\text{W}$

・タイプ5文明：多宇宙文明 (マルチヴァースレベル)。

複数の宇宙の集合で利用可能な全エネルギーを制御できる。

エネルギー消費 $\geq 10^{48}\text{W}$ 。

我が地球はまだタイプ0惑星である。それが、タイプ1惑星へ移行中だというのが、ミチオ・カク博士の主張である。彼はNWOの科学者だ。だから、地球は国家レベルからNWOレベルへ移行中だというのである。

しかしながら、この宇宙のかなり多くの惑星はこの移行に失敗し、滅亡する。いままさに地球がその道を大爆進中だ。だから、宇宙人が心配になって、この地球を訪れているのだ。

8.4 半世紀先をいった岡潔の宇宙観



図 8.7 岡 潔 博 士
帯金充利著「天上の歌—岡潔の生涯」(新泉社, 2003年)
<https://ja.wikipedia.org/wiki/岡潔>; <https://www.furusato-tax.jp/gcf/122>

ところで、天才数学者、岡^{おかきよし}潔博士を知っているだろうか？

我が国および地球世界の現代数学の土台を構築した偉大な天才数学者だ*³⁷ *³⁸。最近では、テレビドラマにもなった*³⁹。本や書籍でもかなり馴染みが出てきたようでもある*⁴⁰。

岡潔博士のほとんど全書籍全文書は、高知県高知市の横山賢二氏の自宅に保管されている。岡潔博士の講演は、横山氏の主催する



図 8.8 横山賢二主催「数学者岡潔思想研究会」

<http://www.okakiyoshi-ken.jp2>

「数学者岡潔思想研究会」のメンバーたちの手で、講演肉声テープから文字起こしされているのだ。それが、横山賢二氏の「数学者岡潔思想研究会」のサイト*⁴¹に掲載されている。

この岡潔博士が、「自然科学は間違っている」と晩年ずっと主張

*³⁷ <https://ja.wikipedia.org/wiki/岡潔>.

*³⁸ 総務省ふるさと納税；文化勲章受章者 世界的数学者「岡 潔」数学に対する熱意と偉業、情緒という日本人の心の大切さを未来に引き継ごう；
<https://www.furusato-tax.jp/gcf/122>.

*³⁹ 天才数学者・岡潔と岡みち夫妻のドラマ、夫の偉業を「妻の愛」に回収している？『天才を育てた女房～世界が認めた数学者と妻の愛』；<https://wezz-y.com/archives/52576>.

*⁴⁰ 帯金充利著「天上の歌—岡潔の生涯」（新泉社，2003年）.

*⁴¹ <http://www.okakiyoshi-ken.jp>

していたことをご存知だろうか？

実は、岡潔先生は、物理学者が考える「時空間は間違っている」。あるいは、「時間や空間の概念は完全に間違っている」。だから、「物理学は間違っている」。ゆえに「自然科学は間違っている」と主張していたのだ^{*42} ^{*43}。たとえば、このように言っている。

【2】自然科学者の時間空間

自然科学者は自然というものをどういうものだと考えているかということを代りに言ってやって、そして、それを検討するより仕方がない。

自然科学者は初めに時間、空間というものがあると思っています。絵を描く時、初めに画用紙があるようなものです。そう思ってます。

時間、空間とはどういうものかと少しも考えてはいない。これ、空間の方はまだ良いんですが、わかりますから。時間の方はわかりませんから。

時間というものを表わそうと思うと、人は何時も運動を使います。で、直接わかるものではない。

運動は時間に比例して起こると決めてかかって、そういう時間というものがあると決めてかかって、そして、時間というものはわかると思っています。空間とは大分違う。

人は時間の中なんかに住んでやしない。時の中に住んでいる。

^{*42} 数学者岡潔思想研究会; <http://www.okakiyoshi-ken.jp>.

^{*43} 岡潔 「自然科学は間違っている」(1)の解説; <http://www.okakiyoshi-ken.jp/oka-shizen00.html>.

時には現在、過去、未来があります。各々、全く性質が違います。それ以外、いろいろありますが、時について一番深く考えたのは道元禅師です。

が、その時の属性のうちに、時の過去のうちには「時は過ぎ行く」という属性がある。その一つの性質を取り出して、そうして観念化したものが時間です。非常に問題になる。

が、まあよろしい。とにかく初めに時間、空間というものがある、その中に物質というものがあると、こう思っています。

【4】 自然科学と生命現象

ところで、自然のできるだけ簡単な模型を考えて、その中を科学するということは、知ってやってるのだとすれば確かに一つの研究方法に違いない。知らずにやってるんですけど、それでもある結果は出るだろう。そうは思います。

しかし、こういう簡単な模型の中だけを調べたのでは、わかるものは物質現象だけで、生命現象はとてもわからないのではあるまいかと、こういう疑いが起こります。それで自然科学に聞いてみましょう。

人は生きている。だから見ようと思えば見える。何故であるか。自然科学はこれに対して本質的なことは一言も答えない。

余計なことはいっています。視覚器官とか視覚中枢とかいうものがあって、そこに故障があったら見えないという。故障がなかったら何故見えるかは答えない。だから本質的なことは何一つ答えられないのです。

人は立とうと思えば立てる。この時、全身四百いくつの筋肉が突嗟に統一的に働くから立てるのですが、何故こういうことができるのか。これに対しても自然科学は本質的なことは一言も答えられない。

人の知覚、運動、どれについても本質的なことは一言も答えられない。知覚、運動というのは生命現象の「いろは」でしょう。もすこし突っ込んだものを申しましょう。

人は観念することができる。観念するというのはどういうことをいうのか。

一例として、哲学することができる。何故か。自然科学は勿論、一言も答えられない。

人は認識することができる。何故か。これに対しても一言も答えられない。

人は推理することができる。何故か。これに対しても一言も答えられない。

それじゃあ一番簡単に、人は感覚することができる。何故か。これに対してもすら自然科学は一言も答えることができない。

【5】自然科学の無知

それじゃあ物質現象なら可成りわかるのか。

で、聞いてみましょう。

物質は諸法則を常にとって決して背かない。何故か。

これに対しても自然科学は一言も答えられない。だから物質現象のほんの一部分、非常に浅い部分だけしかわからんです。

で、それでも人類の福祉に役立ってはいます。たとえば医学は自然科学です。可成り人類の福祉に役立ってはいます。しかしながら、医学の人類の福祉に役立つ役立ち方は、何が何だかわからんままに役立っています。

ところで、間違った思想の洪水から逃れようとするには、智が要ります。無知なままで福祉に役立ってたところで仕方がない。それで物質現象のほんの一部分しかわからんというのは、完全な無知とほとんど選ぶ所がない。

【8】 大宇宙の本体は情である

情がどうして生き生きしているのかということですが、今の自然科学の先端は素粒子論ですね。これも繰り返しいっているんだけど、その素粒子論はどういっているかという、物質とか質量のない光とか電気とかも、みな素粒子によって構成されている。

素粒子には種類が多い。しかし、これを安定な素粒子群と不安定な素粒子群とに大別することができる。

その不安定な素粒子群は寿命が非常に短く、普通は百億分の一秒くらい。こんなに短命だけれど、非常に速く走っているから、生涯の間には一億個の電子を歴訪する。電子は安定な素粒子の代表的なものです。こういっている。

それで考えてみますに、安定な素粒子だけど、例えば電子の側から見ますと、電子は絶えず不安定な素粒子の訪問を受けている。そうすると安定しているのは位置だけであって、内容は多分絶えず変っている。そう想像される。

いわば、不安定な素粒子がバケツに水を入れて、それを安

定な位置に運ぶ役割のようなことをしているのではなかろうか。そう想像される。

バケツの水に相当するものは何であろうか。私はそれが情緒だと思う。やはり情緒が情緒として決まっているのは、いわばその位置だけであって、内容は絶えず変わっているのである。

人の本体は情である。その情は水の如くただ溜まったものではなく、湧き上る泉の如く絶えず新しいものと変っているんだらうと思う。それが自分だらうと思う。

これが情緒が生き生きしている理由だと思う。生きているということだらうと思う。自分がそうであるように、他（ひと）も皆そうである。人類がそうであるように、生物も皆そうである。

大宇宙は一つの物ではなく、その本体は情だと思う。情の中には時間も空間もない。

だから人の本体も大宇宙の本体にも時間も空間もない。そういうものだと思うんです。

この考え方は、昨今の素粒子物理学の世界の理論では、かなり有名になった。この宇宙は映像だと主張する「ホログラフィック宇宙論」*44 *45 *46。あるいは、この宇宙はいくつもあるとする「並行宇

*44 <https://ja.wikipedia.org/wiki/ホログラフィック原理>.

*45 J. D. ベッケンシュタイン（ヘブライ大学）著「ホログラフィック宇宙」<https://www.nikkei-science.com/page/magazine/0311/hologram.html>.

*46 マイケル・タルボット著/川瀬勝訳「投影された宇宙—ホログラフィック・ユニヴァースへの招待」（春秋社、2005年）.

宙論」^{*47 *48 *49}。さらには、「時間は存在しない」と主張する宇宙論である^{*50}。

岡潔先生は、半世紀以上も前にすでにその地点にいたのだ。

8.5 時空間は離散的だと考えた人たち

岡潔博士以外にこういう問題を明確に認識した科学者はいたのだろうか？^{*51}

8.5.1 ベルンハルト・リーマンの指摘

実は、おそらく文章に残っているという意味で言えば、ドイツ人数学者のゲオルク・フリードリヒ・ベルンハルト・リーマン^{*52}が最初だろう。彼は、宇宙の最小単位については、不連続かもしれないと示唆したのだ^{*53}。しかし、宇宙の微小単位を構築することはむずかしい。だから、彼は宇宙の大域的な構造を決めるための数学形

^{*47} <https://ja.wikipedia.org/wiki/多元宇宙論>.

^{*48} M. テグマーク（ペンシルベニア大学）著「並行宇宙は実在する」
<https://www.nikkei-science.com/page/magazine/0308/another.html>.

^{*49} ミチオ・カク著/斉藤隆央訳「パラレルワールド 11次元の宇宙から超空間へ」(NHK 出版, 2006年).

^{*50} カルロ・ロヴェッリ著/富永星訳「時間は存在しない」(NHK 出版, 2019年).

^{*51} 「宇宙は不連続」と考えた人たち：リーマン、湯川、岡潔、グロタンディーク、保江; <https://quasimoto.exblog.jp/22058408/>.

^{*52} Georg Friedrich Bernhard Riemann, 1826年9月17日 - 1866年7月20日.

^{*53} ベルンハルト・リーマン著/菅原正巳訳「幾何学の基礎をなす仮説について (ちくま学芸文庫)」(筑摩書房, 2013年).



図 8.9 ゲオルク・フリードリヒ・ベルンハルト・リーマン, 1826 年 9 月 17 日 - 1866 年 7 月 20 日
1826 年 9 月 17 日 - 1866 年 7 月 20 日
<https://ja.wikipedia.org/wiki/ベルンハルト・リーマン>.

式を研究した。それが、リーマン幾何学である。アルベルト・アインシュタイン博士はこれを利用したのだ。

その次が、おそらく岡潔博士だろう。それが、上述の「自然科学は間違っている」である。

8.5.2 グロタンディークの幾何学における革命

その次が、ユダヤ系フランス人数学者のアレクサンドル・グロタンディーク^{*54}だろう^{*55}。アレクサンドル・グロタンディークは彼

^{*54} <https://ja.wikipedia.org/wiki/アレクサンドル・グロタンディーク>.

^{*55} アレクサンドル・グロタンディーク著/辻雄一訳「数学者の孤独な冒険—数学と自己発見への旅」(現代数学社, 新装版, 2015年).



図 8.10 アレクサンドル・グロタンディーク
Alexander Grothendieck, 1928 年 3 月 28 日 - 2014 年
11 月 13 日 1826 年 9 月 17 日 - 1866 年 7 月 20 日
[https://ja.wikipedia.org/wiki/アレクサンドル・グロタン
ディーク](https://ja.wikipedia.org/wiki/アレクサンドル・グロタンディーク).

の自伝の中にこう書いている^{*56}。

この状況では、今世紀はじめ、アインシュタインの相対性理論が出現したときにあらわれていた状況と非常に近いように思われます。そこには、突然の、解決できないように思える矛盾によって具現化された、さらに明白な概念上の行き詰まりがありました。(中略)

数学上の観点からすると、アインシュタインの新しい考えは月並みなものでした。逆に、物理空間についての私たちのもつ概念の観点からすれば、これは深い変革であり、突然

^{*56} アレクサンドル・グロタンディーク著/辻雄一訳「数学者の孤独な冒険—数学と自己発見への旅」(現代数学社, 新装版, 2015年). 83 ページ.

「異なった環境に置かれる」という状態でした。2400年前にユークリッドによってひき出された物理空間の数学的モデル、そして地上および星の力学的現象を叙述するためのに古来以来すべての物理学者、天文学者（ニュートンを含む）によって力学の必要性のためにそのまま引き継がれてきたものの以来の最初の大きな変革でした。（中略）

...幾何学にとってもっとも基本的な概念、つまり空間という概念（そして「多様体」という概念）、すなわち幾何学的存在が生きている「場」そのものについて私たちの持つ概念を覆すに至りました。

空間の新しい概念（一種の「一般化された空間」ですが、そこでは「空間」を作っていると考えられる点は多かれ少なかれ消えてしまっています）は、その実体において、アインシュタインが物理学に導入した概念とはまったく似ていません（アインシュタインの概念の方は、数学者にとって度外れなものでは全くありません）。これに対して、シュレーディンガーによって発見された量子力学との比較が可能です。（中略）

そして昔の、人を安心させる粒子に取って替わったこれらの「確率の雲」が私に想起させるものは、強情な想像力がしがみついている、想像上の「点」を取り囲むために、影のうすい幻のように、トポスに充満している、捉えがたい「開近傍」なのです。...

そして、こういう主張の合間にいくつかのコメントが加えられていて、そのコメントがまた実に不可解かつ意味深なのだ。この中で

もコメント（5）が特に興味深い。ちょっと長いけれども、そこだけ拾い出してみよう^{*57} ^{*58}。

問題にされている、さまざまな部分的な理論を「統一させ」たり、和解させたりするに至る、このような仮説的な理論のことを「統一理論」と呼んでいました。私は、企てられることが期待される基本的考察は、つぎの異なった二つのレベルにあると感じています。

1) 現実の一部分に対する「数学モデル」という概念そのものについての、「哲学的」性質の考察です。ニュートン理論の成功以来、物理的現実を「乖離^{かいり}」することも誤ることもなく、完璧な仕方で表現するための数学モデル（さらには、唯一のモデル、あるいは「決定的な」モデル）が存在するということが、物理学者の暗黙の公理となっています。2世紀あまり前から通用しているこのコンセンサスは、「すべては数である」というピタゴラスの生き生きとしたビジョンのいわば一種の化石となった名残りのようなものです。（中略）おそらくここに、物理学者の宇宙を限界づけるために、古い形而上学的な枠に取って替えられた新しい「目に見えない枠」があるのでしょうか（一方には、「自然についての哲学者」と呼ばれる人たちが完全に消滅してしまっていて、やすやすとコンピュータを操る人たちに取って替えられたようです...）ほ

^{*57} グロタンディークと望月新一の接点？：数論幾何学はアインシュタイン理論を超えるかどうかにある！？；<https://quasimoto2.exblog.jp/238872006/>.

^{*58} アレクサンドル・グロタンディーク著/辻雄一訳「数学者の孤独な冒険—数学と自己発見への旅」（現代数学社、新装版、2015年）。86-90ページ。

んの一瞬でも、そこに立ち止まってみさえすれば、このコンセンサスの有効性はまったく明らかでないことは明白です。当然のようにこれを疑問に付すような、あるいは少なくともその有効性にかきわめて限られた限界があることを予測させるような、非常に根拠のある哲学的理由さえあります。ちょうど今が、この公理を緻密な批判の対象にする、おそらくは、また、あらゆる可能な疑問を超えて、それが根拠のないものであること、つまり、現在までに記録された、いわゆる「物理」現象の全体を考慮に入れた、唯一の厳密な数学モデルは存在しない...ということを「証明する」時期だと思います。

ひとたび「数学モデル」という概念そのもの、そして（なされる測定において許容されるある「誤差の範囲」の限界の中での）このようなモデルの「有効性」という概念が満足すべき仕方で輪郭をはっきりさせられるとき、「統一理論」の問題あるいは少なくとも「最適モデル」（この意味ははっきりさせねばなりません）の問題はついに明確に提出されることになるでしょう。そして同時に、おそらく、このようなモデルの選択の度合いについての明確な考えも生まれることでしょう。

2) 以前のものよりもより満足のいく明確なモデルを引き出してくるという「技術的な」問題がそのあらゆる意味を持つと思われるのは、ただこのような考察のあとでのみでしょう。その時はまた、おそらく、これも古代にさかのぼる、空間についての私たちの知覚のあり方そのもののの中に深く根付いている、物理学者の第二の暗黙の公理から解き放たれることでしょう。その公理は「物理現象」が生起している「場」

の、空間と時間の（あるいは時空の）**連続性**という性質についてのものです。

もう15年前あるいは20年になると思いますが、リーマンの全作品からなるささやかな本をひもといていたとき、「通りすがりに」なされている彼の指摘に心を打たれました。そこで彼はつぎのような考察をしています。空間の究極的構造は「離散的」であること、私たちが空間に関して作っている「連続的」表現はおそらくより複雑な現実の（結局のところは、たぶん過度な）単純化となっていること、人間精神にとって、「連続」は「不連続」よりもずっと把握しやすいこと、したがって、それは不連続を理解するための「近似」として役立っているということがありうる、ということです。これは、物理空間のユークリッド・モデルがまだ一度も問題に付されたことがなかった時期での、一数学者の口から出た驚くほど洞察力のある指摘だと思います。厳密に論理的な意味では、伝統的に、連続へ向かっての技術上のアプローチの仕方として役立てられてきたのは、むしろ不連続の方です。

さらに、ここ数十年の数学の発展によって、今世紀の前半にはまだ想像できなかったほどの、連続構造と不連続構造との間の極めて緊密な共生関係があることが示されました。それでもやはり、それが「連続的」であろうと、「離散的」であろうと、また「混合した」性質のものでであろうと、「満足すべき」モデル（あるいは、必要ならば、可能な限り満足すべき仕方）で「つながり合っ」ている、このようなモデルの集まり...）を見出すこと—このような仕事はたしかに大きな概念上の想像力を投入させることになるでしょうし、新しいタイ

プの数学構造を把握し、明るみに出すための熟達した直感力を必要とするでしょう。この種の想像力あるいは「直感力」は、物理学者の中ばかりでなく（アインシュタインやシュレーディンガーはまれなる例外だったのでしょうか）、数学者の中でもまれなように思います（このことについては完全に事情を知った上で話しているのですが）。

要約すると、期待される革新（これが再びおこるものとして...）は、物理学者からよりも、むしろ物理学の大問題によく通じている、根っからの数学者からやってくるだろうと私は予測しています。だがとくに、問題の核心を把握するためには、「哲学的に開かれた心」をもっている人物が必要でしょう。この問題の核心は、技術的な性質のものではまったくなく、「自然についての哲学」の基本問題だからです。

（1986年5月3日）

私はここでアインシュタインのモデルも含めて、物理現象に対して現在までに提案されているモデルについて、哲学的起源のもうひとつの批評をしておきたいと思います。時空とその構造（特に軽量的な）は、観測者の過去と未来を含む、「現在の」、侵し得ない**与件**として取られているということ、また同時に、時空のこの部分はその過去と未来から逃げてしまっているということです。したがって、ここに、結局は、観測者から独立した存在と構造をもったある「絶対」があります。ところが私たちがよく知っているように、観測者は、「その過去」の影響を受けているだけでなく、自分の自由意志と自分の中にある創造性によって、「その将来」に対して影響を与えます。それは、(物理的)「自然法則」によって定

められたある範囲の内部で作用を及ぼす影響です。したがって、「観察者の前にある」時空のこの部分（とくにすぐ近くにある部分）の構造自体、とくに（少なくとも部分的には）物質とエネルギーの流れによって叙述さえる構造は、あらかじめ「すべてできあがっている」ものではなく、ある程度は、「自己創造している」のです。たぶんここに、時空の**構造**（計量的な、物質とエネルギーの流れ）を、おのおのの「場」（あるいはむしろ、おのおのの「場一時点」で、つまり時空の各点で）連続的な創造としてみるばかりでなく、この構造の「土台」である、時空自体がそれらにつれて自己創造しているものとしてみるようなモデルを構想する必要があるようです。

もちろん、私は「観察者」ということで、**人間**の観察者だけでなく、宇宙のおのおの「場」で、おのおのの時点で活動しており、宇宙の息吹き、あるいは生命そのものとして存在している創造的な知性をも考えに入れています。この「息吹き」は、現在までに構想されたモデルに存在しないだけでなく、**禁じられている**ように思われます。明らかに、この息吹きを含めるには、いままでに提出されているすべてのモデル、つまり「出来合いのモデル」に欠けている柔軟性、内的なダイナミズムを与えるために、時空という基本概念についての深い再考察が必要とされるでしょう。

この方向での第一の基本的な問題は、二人の観察者（つまり二つの異なる「場一時点」の過去の一部をなしている、時空の「過ぎ去った」部分に対して、この部分は、観察者、すなわち観察の場一時点とは独立した、「絶対的な」または

「客観的な」構造を有しているとみなすということは、適切なことかどうかという問題です。ここに（私の知るかぎりでは）現存するすべてのモデルのもつ暗黙の前提のもうひとつがあります。つまり、これらのモデルは、アインシュタインによって導入された大きな革新的な哲学的アイデアである、観察者に対する観察される現実の「相対性」という考えに逆らっているのです。このアイデア自体は、アインシュタイン自身が物理学者のために多少とも「使用できる」ような仕方です。これを表現するよう努力したモデルがいかにエレガントであっても、それらよりも、より深く、より豊かなもののようには思われます。ところがこれらのモデルでさえ気難しい同時代人たちに受け入れさせることは容易なことではなかったことを言っておかねばなりません。

8.5.3 湯川秀樹の素領域理論

そして、その次が、我が国の湯川秀樹^{*59}博士だ。実は、湯川秀樹博士と盟友の朝永振一郎博士の数学の先生は、共に京都大学出身である。その時の数学教師が、岡潔と秋月康夫^{*60}だったのだ。

湯川秀樹博士は、教師として優れていて授業がよくわかったのは秋月康夫先生だった。しかし自分が生涯の役に立つ一番の影響を受けたのは岡潔先生だったと回想している。一方、朝永振一郎博

^{*59} ゆかわ ひでき、1907 年（明治 40 年）1 月 23 日 - 1981 年（昭和 56 年）9 月 8 日; <https://ja.wikipedia.org/wiki/湯川秀樹>.

^{*60} あきづき やすお、1902 年 8 月 23 日 - 1984 年 7 月 11 日; <https://ja.wikipedia.org/wiki/秋月康夫>.



図 8.11 湯川秀樹と朝永振一郎

湯川秀樹（ゆかわ ひでき）, 1907 年（明治 40 年）1 月 23 日 - 1981 年（昭和 56 年）9 月 8 日

<https://ja.wikipedia.org/wiki/湯川秀樹>

朝永振一郎（ともなが しんいちろう）, 1906 年（明治 39 年）3 月 31 日 - 1979 年（昭和 54 年）7 月 8 日

<https://ja.wikipedia.org/wiki/朝永振一郎>

https://www.nikkei-science.com/page/magazine/0705/200705_044.html.

士は、この二人の数学にかける情熱は素晴らしいとこう書いている^{*61}。

しかし、この退屈な教室にも、沈黙の中にときどき吹き込んで人々を生き返らせる冷風のように、新鮮な空気の漂う時間があった。それは岡潔先生と秋月康夫先生の数学の演習の時間であった。何日も考え続けて、むつかしい問題が解けた

^{*61} 服部静夫著「わが師わが友 (1)」(みすず書房, 1967年).

ときのよろこびは、たとえ答えのわかっている問題であっても、それは純粹に学問的な想像のよろこびに近い。

この両先生の魅力は、堀健夫先生の場合と同じく、みずから情熱を研究にささげているという点にある。その情熱が学生に伝わってくるのである。時々御自身の研究についての話もきく。若い先生というものは、学生にわからせるというよりも、御自身の興味に溺れることもあるものだが、これがまたなまいきな学生にはたまらぬ魅力なのである。

こうして、いつしか湯川秀樹先生の頭には、岡潔先生から無意識に影響を受けた考え方が根付く。そして、ノーベル賞を受賞してずっと後の、かなり壮年に近づいた頃、「素領域の理論」に傾倒していくのだ^{*62} そして、これは死の直前の最晩年まで続けられた^{*63}

^{*64}

^{*62} 梅村 勲 著「素領域理論 (<特集>湯川秀樹博士追悼)」
https://www.jstage.jst.go.jp/article/butsuri1946/37/4/37_4_277/_article/-char/ja/.

^{*63} 豊田利幸/保江邦夫 著「素領域理論への一つの試み」素粒子論研究 / 55 巻 (1977) 3 号;
https://www.jstage.jst.go.jp/article/soken/55/3/55_KJ00004781272/_pdf/-char/ja/.

^{*64} 保江邦夫/井口和基 著「物理で語り尽くす UFO・あの世・神様の世界」(ヒカルランド, 2015年).

8.5.4 保江邦夫博士の神の物理学: 甦る素領域理論

そして、最近、その素領域理論がまた、湯川秀樹の最後の弟子である、保江邦夫博士の手により復活したのだ^{*65*66}。そこには、現



図 8.12 保江邦夫(やすえくにお), やすえくにお、1951年9月27日 - .
<https://yasuekunio.com>
<https://yasuekunio.com/profile>
<https://ja.wikipedia.org/wiki/保江邦夫>.

代確率論、確率の量子化の手法という新しい理論的枠組や視点から、素領域理論を再構築し直すのだ。それが、物質の素としての素領域と、その外との両方を全宇宙と捉える「神の物理学」というも

^{*65} 保江邦夫著「ついに、愛の宇宙方程式が解けました」(徳間書店, 2015年).

^{*66} 保江邦夫著「神の物理学: 甦る素領域理論」(海鳴社, 2017年).

のだ。

物質の世界は、時空の最小単位として素領域という粒々^{つぶつぶ}からなる。素領域の世界はすべてつながったたった1つの世界しかない。



図 8.13 国宝級の松井守男画伯の作品「愛の光珠」の絵
京都の「上賀茂神社」に所有されているといわれる。
保江邦夫著「神の物理学: 甦る素領域理論」(海鳴社, 2017年)
<https://quasimoto2.exblog.jp/238483665/>.

それが「神の世界」。この世界には距離は存在しない。時間も存在しない。そこを通じて「不二不二」の宇宙ができる。素粒子は、素領域の上をブラウン運動のようにして飛び回るだけ。これが保江邦夫が考える「形而上学的素領域理論」なのだ。

8.5.5 天才数学者望月新一博士の宇宙際幾何学

そして、あのアレクサンドル・グロタンディーク博士の真の後継者といえる人が、この京都大学でいま活躍中の天才数学者望月新一博士なのだ*67。



図 8.14 望月新一博士，もちづき しんいち，1969 年（昭和 44 年）3 月 29 日 - .
未解決の超難問「ABC 予想」を証明！

“天才数学者”望月新一とは何者か

<https://bunshun.jp/articles/-/38457>

<https://ja.wikipedia.org/wiki/望月新一>.

*67 もちづき しんいち、1969 年〈昭和 44 年〉3 月 29 日 - ;
<https://ja.wikipedia.org/wiki/望月新一>.

8.6 山本空外上人と山崎弁栄上人

8.6.1 湯川秀樹の師匠：山本空外上人

ところで、湯川秀樹博士にこの観点を伝えた人が誰だったか、知っているだろうか？

実は、仏教の高僧の山本空外上人^{*68}だった^{*69}。山本空外上人は、



図 8.15 山本空外上人，やまもとくうがい，1902年9月13日 - 2001年8月7日。
<http://cq-lillian.kir.jp/kugai-kinenkan/index.html>
<https://ja.wikipedia.org/wiki/山本空外>.

^{*68} 山本 空外 (やまもと くうがい), 1902年9月13日 - 2001年8月7日;
<https://ja.wikipedia.org/wiki/山本空外>.

^{*69} 「山崎弁栄上人と山本空外上人」;
<https://plaza.rakuten.co.jp/jifuku/6023/>.

若い頃、学校の教師をしていた。その同僚が、岡潔博士だった。そして、教師を辞め、宗教家への道を進む。その時の、指導者になったのが、山崎弁栄上人^{べんねい}だった*70。

8.6.2 山本空外上人の師匠：山崎弁栄上人

この山崎弁栄上人こそ、岡潔博士に一番影響を与えた聖人である。岡潔博士の認識を、この宇宙世界の認識を変えさせたのだ。岡



図 8.16 山崎弁栄上人，やまざき べんねい，安政 6 年（1859 年）2 月 20 日 - 大正 9 年（1920 年）12 月 4 日.

<http://www.yamazakibennei-museum.com>

<https://ja.wikipedia.org/wiki/山崎辨榮>.

潔博士は、山崎弁栄上人の数多くのエピソードを多くの講演会で

*70 山崎弁栄記念館; <http://www.yamazakibennei-museum.com>.

語っている。そういった話の多くは、横山賢二氏のサイト*⁷¹に昔の講演の肉声テープから手間暇かけて文字起こしされている。それから私の YouTube チャンネルのいくつかで朗読している*⁷²。

8.7 「不二不二」というものの見方

その中でも一番ユニークな観点というのはなんだったか？

それは、ここでの時空間の話に関連して「不二不二」という概念だ。岡潔博士はこう述べている*⁷³。

【6】 数学の使えない世界

この、第2の心の世界ですが、二つの第2の心は二つとも云える、一つとも云える。不二不二と云うんです。不二不二と云ったら二つとは云えない一つとも云えないのですが、この自然と自分とは不二不二、他人と自分とも不二不二、こう云う風。

この第2の心の世界はその要素である第2の心は二つの第2の心が不二不二だと云うのだから数学の使えない世界です。又この世界には自分もなければ、この小さな自分ですよ、五尺の体と云う自分もなければ、空間もなければ時間もありません。時はあります。現在、過去、未来、皆あります。

それで時の性質、過去の性質、時は過ぎ行くと云う性質はあります。しかし時間と云う量はありません。そんな風で

*⁷¹ 数学者 岡潔思想研究会; <http://www.okakiyoshi-ken.jp>

*⁷² かずもとちゃんねる: https://www.youtube.com/channel/UC05PBrn_BXVOA07V
https://www.youtube.com/watch?v=VIZqFELg1_Q.

*⁷³ 岡潔著「一滴の涙」; <http://www.okakiyoshi-ken.jp/oka-itteki06.html>.

すね。

自分もなければ空間もなければ時間もない。その上数学が使えない。物質はここから生まれて来て、又ここへ帰って行っているのだと云う意味になることを、山崎弁栄上人が云って居られる。

そんな風に不二不二だから目覚めた人はこんな風になる。

花を見れば花が笑みかけているかと思い、
鳥を聞けば鳥が話しかけているかと思い、
人が喜んで居れば嬉しく、
人が悲しんで居れば悲しく、
人の為に働くことに無上の幸福を感じ疑いなんか起こらない。

こんな風です。

実は、この日本人の仏教徒の考え方は、あの空海禅師^{*74}から始まる。仏教は最初インドに始まった。それを中国人がインドへ行って学び、それを日本人が中国へ行って学び、日本に持ち帰った。インド人や中国人が知っているのはここまでだ。問題はそれからだ。

日本に伝わった仏教を日本の僧侶たちがさらに研鑽や修行を行い、はるかに深いレベルまで昇華させたのだ。それが、空海の密教と呼ばれる、日本仏教である。そこから、最澄の天台宗、法然上人の浄土宗、道元禅師の曹洞宗など様々のものが現れた。しかしながら、その根底に属するものは共通のものである。

だから、日本の禅が中国の禅とはまったく違っているように、日

^{*74} <https://ja.wikipedia.org/wiki/空海>.

本の仏教はインドや中国の仏教とも全く異なるのだ。これをインド人や中国人や欧米人はご存じない。

この日本の仏教には、その基礎となった日本人という民族固有の思想が根付くからである。それが、日本の古神道に由来する自然崇拝や太陽崇拝である。この世のありとあらゆるものに神が宿る。この世の全てに魂がある。すべてのものは生きている。

このような素朴な考え方の上に仏教思想が重なり、日本独特の仏教思想へ発展したのだ。そして、特別に宗教信者でなくとも、日本人なら、おおよそ、仏教徒のいう「大霊界」のような輪廻転生の思想を持つのである。ここが、日本人の最も日本人らしいところである。

こうした日本人のものの見方は、ユダヤ・キリスト教ベースの欧米人には全く理解できないことだ。彼らには、アニミズムにしか見えない。あるいは、教育のない普通の欧米人には、邪教にしか見えない。そういう外国人なら、日本人の考え方は異教徒の戯言と捉えるだろう。

8.8 「一なるものの法則」

ところが、比較的最近になって非常に興味深いことが起こったのだ。デービッド・ウィルコックの「コズミックディスクロージャー」の主要メンバーたちから重要な情報がもたらされたのだ。それは、特に宇宙人の円盤に乗って宇宙留学を行った米兵たち、ピート・ピーターソン博士やコーリー・グッドやエメリー・スミスやランディー・クラマーからのものだった。それは、彼ら西洋文明の宇宙認識や宗教観を抜本的に変革するような内容だったのだ。

彼ら宇宙交換留学生や宇宙旅行者たちは、この宇宙に多くいる各惑星系の宇宙人たちの考え方を学んできた。その考え方は、この宇宙のあり方や捉え方に関するものである。

さて、その彼らが米人インサイダーたちに教えた宗教とは、何だったのだろうか？

それが、「一なるものの法則」である。

ところが、この「一なるものの法則」は、彼ら米軍インサイダー知るようになるずっと前に、アメリカのチャネラーの宇宙存在との交信によって知られていたのだ。それが「ラー文書」だったのだ^{*75*76}。

この本の名前が、なぜ「ラー文書」なのか？

それは、こういう理由からだった。アメリカの女性チャネラーがベッドに上向きに寝る。チャネラーは仲間の医師から催眠術をかけられる。そして催眠状態で、チャネリング状態に入る。そうやって、宇宙の存在が降りてくるのを待つ。そのうち、宇宙存在が降りてくる。するとチャネラーは交信し始める。起きている質問者が、女性チャネラーに質問をする。チャネラーが宇宙存在にその質問をする。すると、かならず最初にその宇宙存在は、「私はラー」で始めるのだ。

そういう方法で、膨大な内容が蓄積されたのだ。そして、その一部を2冊の本にまとめた。それが「ラー文書」という本だったの

^{*75} ドン・エルキンズ/カーラ・L・ルカート/ジェームズ・マッカーティ著/紫上はとる訳「ラー文書『一なるものの法則』第1巻」(ナチュラルスピリット, 2008年).

^{*76} ドン・エルキンズ/カーラ・L・ルカート/ジェームズ・マッカーティ著/紫上はとる訳「ラー文書『一なるものの法則』第2巻」(ナチュラルスピリット, 2018年).

だ。そういうチャネリングの本がすでに1984年に出版されていたのだ。

あくまで、当時は、宇宙存在とのチャネリングで何が得られるか？
そういう興味本位で行われものなのだ。

ところが、21世紀になった。デービッド・ウィルコックのコズミックディスクロージャーが始まる。すると、そのチャネリングの存在と、宇宙情報を暴露し始めた米軍兵が極秘宇宙プログラムで交流する指南役の宇宙人とが、同じルーツの種族だったことがわかってくるのだ。

8.9 ブルーエイヴィアン

彼らを指導した宇宙人の名前を聞いたことがあるだろうか？

ブルーエイヴィアンという。

これこそ、米兵の宇宙交換留学生たちの指導した指南役の宇宙人。彼らは、ブルーエイヴィアンズ^{*77}という種族の宇宙人だったのだ。この種族は、鳥の進化した形態の宇宙人だ。そして、地球には非常に昔から交流があったようだ。彼らは非常に親切で、霊的であり、スピリチュアルな種族なのだ。

こうして、一見まったく無関係の2つの情報源がブルーエイヴィアンで繋がるのだ。そこから、どんどんこれまで繋がりがあまり分からなかったことが分かるようになってくる。

古代エジプトの壁画に鳥頭の間人がある。トート神である。あれが、このブルーエイヴィアン種族である。あるいは、そのブルーエ

^{*77} Blue Avians

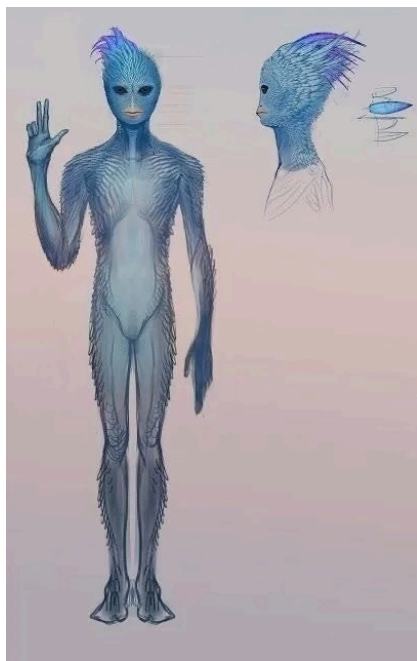


図 8.17 ブルーエイヴィアン

<https://quasimoto3.exblog.jp/240276089/>

<https://quasimoto3.exblog.jp/240207386/>

イヴィアンを象徴する面をかぶったエジプト人である。この種族がエジプトに「ラー」という王の称号をもたらしただ。エジプトの太陽神ラー。このラーの輪廻転生の思想が、エジプト人にミイラ思想を生み出させたわけだ。この考え方こそ、「一なるものの法則」だったわけだ。つまり、超古代エジプトに文明をもたらしただ張本人もまた、ブルーエイヴィアンだったというわけだ。

ところで、我が国の神道、さらに古神道には、鳥がよく出てくる。また、北米のネイティブ・インディアンの宗教は鳥を崇拝している。南米のインカ帝国の人たちの崇拝するケツアルコアトル神^{*78}も、ヘビのような鳥のような存在である。マヤの神ククルカンは羽

^{*78} <https://ja.wikipedia.org/wiki/ケツアルコアトル>.



図 8.18 トー ト 神

<https://ameblo.jp/perfectrainbow111/entry-12309712342.html>.

の生えたヘビと捉えられている^{*79}。

いまでは、ヘビやトカゲのような爬虫類と羽毛の生えた鳥類は非常に近い存在だということがわかっている。これまでは、あのトリケラトプスとか、ティラノサウルスとか、爬虫類は、スティーヴン・スピルバーグ監督の「ジュラシックパーク」のように、特有のつるつるでシワシワの皮膚の凶暴なイメージに捉えられた。しかし、実際には鳥のような羽毛が生えていたのではないかとされているのである。だから、レプティリアンという種族やバード種族は近い存在と考えられるのだ。

古代文明はその鳥類や爬虫類に近い形態の存在を神々と捉えた。

^{*79} <https://ja.wikipedia.org/wiki/マヤ神話>.

古代人は、そういう神々から教えを得た。だとするならば、やはり古代人の時代から地球人はエイヴィアンのような高度文明からの介入があったことになるわけだ。

そして、極めつけは、我が国の法隆寺に隠された秘蔵の侍者像であろう。元来、我が国の色は^{あいいろ}藍色である。ジャパンプルーとはこの



図 8.19 法隆寺の秘蔵の3体の侍者像；馬頭形，鼠頭形，鳥頭形

[https://法隆寺御朱印.jinja-tera-gosyuin-](https://法隆寺御朱印.jinja-tera-gosyuin-meguri.com/category/奈良・法隆寺に宇宙人が実在した？！)

[meguri.com/category/奈良・法隆寺に宇宙人が実在した？！](https://quasimoto3.exblog.jp/240207386/)

<https://quasimoto3.exblog.jp/240207386/>.

色のことだ。

どうしてジャパンプルーは、日本の四方八方を取り巻く海の^{あお}碧ではなく、^{あいいろ}藍色に近いのか？

おそらく、我が国の遠い過去において、日本人に古神道の考え方をもたらした存在が、ブルーエイヴィアンだった可能性があるわけだ。だから、このブルーエイヴィアンが、米軍の宇宙交換留学生や、チャネラーたちに伝えた宗教は、我が国の古神道や仏教徒の大霊界そのものだったのだ。

私自身「ラー文書」*80*81を2冊買って、一応目を通して読んでみたのだ。その内容は膨大だった。

おそらく、それらはユダヤ・キリスト教文化ベースの欧米人にとっては、まったく新しい考え方に見えただろう。これが、ブルーエイヴィアンの宇宙の法則なのだ。そういうふうに感じたはずである。

しかしながら、そこにあった考え方は、我々日本人にとってみれば、ごく普通だった。我々には非常に馴染み深いものにすぎない。何も新しい考え方は存在しない。私には、なにかそういう日本には既知で、当たり前を感じる考え方が、仰々しく、くどくどと述べられているだけのようにはみえたのだ。だから、私自身は、残念ながら、すぐに本を棚に戻すほかはなかった。

いずれにせよ、このブルーエイヴィアンの考え方こそ、この宇宙の多くの宇宙人が持つ宇宙観なのだ。それが、実は、我が国の仏教の高僧たちや岡潔博士の語ってきた考え方とほとんど同一だったのだから、これは驚くべきことではないだろうか？

8.10 量子モナドと唯心論物理学

結局、岡潔博士の考える宇宙とはどんなものなのだろうか？

アインシュタインの宇宙ではなさそうだ。ビッグバン宇宙でもな

*80 ドン・エルキンズ/カーラ・L・ルカート/ジェームズ・マッカーティ著/紫上はとる訳「ラー文書『一なるものの法則』第1巻」(ナチュラルスピリット, 2008年).

*81 ドン・エルキンズ/カーラ・L・ルカート/ジェームズ・マッカーティ著/紫上はとる訳「ラー文書『一なるものの法則』第2巻」(ナチュラルスピリット, 2018年).

い。単なるホログラフィック宇宙でもない。単なるパラレルワールドでもない。単なる時間の存在しない宇宙というわけでもない。

素粒子が、生まれて消える。つまり、素粒子は生成消滅する。とすれば、素粒子は安定な基本粒子ではない。だとすれば、素粒子をこの世界の基本粒子だと考える物理学は、世界を映像として見ているだけだ。つまり、我々が物理的存在と考えているものは、その物理的世界に存在する我々の固有の認識に過ぎないのだ。

いわば、コンピュータのゲームの世界の住人のようなものだ。この住人の住む世界はモニターの中だけだ。そのモニター映像世界の住人には、映像の中の物体が硬く感じられる。映像の中の鏡に、自分の姿が映るし、映像世界のボールはきちんと壁で跳ね返る。

しかしながら、そういうゲーム世界を定義する情報は、どこか別の世界の別の場所に別の形で記憶されている。その記憶の世界は、ゲームの世界とは全く違う論理で組み立てられている。記憶素子のどこに何が入るかは、どうでも良い。どこかに記憶され、取り出せれば、それで良い。

この意味で、このゲーム世界のすべては、モニター世界を作るべき情報空間の中に存在する。情報の世界には、このモニター世界のすべてが記録されているはずだ。時間は存在しない。時間はそれを取り出したときだけ意味を持つ。空間も存在しない。なぜなら、そこには、モニター世界の情報はバラバラに記憶されるからだ。

事実、我々のネット情報は一箇所にあるとは限らない。一つの内容に見える情報は別々サーバーに保管されているかもしれない。それが東京のサーバーか、ソウルのサーバーか、北京のサーバーか、サンフランシスコのサーバーの中にあるのか、誰にもわからない。とにかく、そうした別のサーバーに保管されていればそれで事足り

るのだ。

この岡潔博士の宇宙は、近年少しずつリバイバルしつつある考え方を彷彿させる。それが、我が国の、やはり京都大学出身で、保江邦夫博士の盟友^{*82}である中込照明博士の「量子モナド」^{*83}という考え方なのだ。



図 8.20 中 込 照 明 博 士

<http://science.cc.kochi-u.ac.jp/course/information.html>

これはどういうことだろうか？

モナドという概念は、かのゴットフリート・ヴィルヘルム・ライ

^{*82} 保江邦夫著「神の物理学: 甦る素領域理論」(海鳴社, 2017年).

^{*83} 中込照明著「唯心論物理学の誕生—モナド・量子力学・相対性理論の統一モデルと観測問題の解決」(海鳴社, 1998年).

プニッツ^{*84}が「モナド論」^{*85}で生み出した考え方だ。それを量子力学に応用して全く異なる新しいレベルの理論にしたのが、「量子モナド論」なのだ。

非常に簡単に言えば、こういうことになる。

この現実世界は、コンピュータの映像の中の仮想現実（バーチャルリアリティ）世界のようなものだ。コンピュータ内の仮想現実を作り出す法則は、そのバーチャル世界の外の別の世界の中にある。コンピュータ内の仮想現実内のすべては、その中の物理法則にしたがって発展する。しかしながら、その仮想現実世界の物理法則や時間発展のすべては、その外に情報としてインプットされプログラム化されている。

この考え方は、この世界にコンピュータが発達してこないといけないものだ。だから、こういう考え方がコンピュータの発明以前には起こり得なかった。しかし、コンピュータの発達し、人々が携帯コンピュータであるスマホを持ち歩くいま現在では、非常に分かりやすいだろう。

仮想現実のゲーム世界のすべてが、データ化され、スマホの中のフラッシュメモリに記録される。これと同じように、この現実だと我々が考えるこの世界のデータもまた、何らかの形でデータ化され、この宇宙の外のフラッシュメモリのような“なにか”に記憶されている。

この世界もそうなっているのだ。これが中込照明博士の「唯物論

^{*84} Gottfried Wilhelm Leibniz, 1646 年 7 月 1 日（グレゴリオ暦）/6 月 21 日（ユリウス暦） - 1716 年 11 月 14 日。

^{*85} ライプニッツ著/谷川 多佳子訳「モナドロロジー 他二篇」（岩波文庫, 2019 年）。

的物理学」「量子モナド論」なのだ。実に岡潔博士が言っていた世界に近い。これが、古来、スピリチュアルな人々が語り続けてきた、「アカシックレコード」*86というものなのだ。

*86 <https://ja.wikipedia.org/wiki/アカシックレコード>